

行動計画・実績

Planning/Progress

活動計画

環境安全委員会では、4月に開催される総会で活動計画の進捗状況や法的・社会的情勢などを考慮し、単年度および中期的な活動計画を審議決定しています。2010年度は、前年度に引き続き、地球温暖化対策、省資源・廃棄物対策、化学物質管理、労働安全衛生活動の4項目に専門部会を設定し、計画的に活動を推進しました。また、会員企業単独では解決しにくい課題や今後、環境安全委員会が取り扱うべき課題についても外部団体や専門家からの情報収集に努めました。環境安全委員会では、これらの活動や情報

を定期的に発行する情報誌や調査報告書あるいは対策事例集などにまとめ提供することにより、会員企業の環境保全・労働安全衛生活動を支援しています。

環境安全委員会では、以下の環境保全の課題に数値目標を設定し、活動を推進しています。

一方、労働安全衛生については、労働災害の発生状況、健康管理、メンタルヘルス、営業車両事故対策などへの会員企業の取り組み状況などを調査し、会員企業に情報を提供しています。

地球温暖化対策

2010年度(第一約束期間5カ年の平均値)の製薬企業のCO₂排出量を1990年度レベル以下に抑制する。

※1997年度より、会員企業に自主行動計画フォローアップ参加を呼びかけ、活動を継続しています。京都議定書でCO₂の排出量削減が目標となっていることに合わせ、当委員会の目標も1990年度の排出総量を基準量としたCO₂排出削減目標を設定しています。

省資源・廃棄物対策

- 最終処分量を2010年度までに20%まで削減する(1990年度基準)。
- 最終処分率を2010年度において5%以下にする。
- 廃棄物発生量を2010年度において1990年度比10%削減する。

※1998年度より、廃棄物最終処分量、再資源化量に数値目標を設定して廃棄物の削減対策を継続してきました。行動計画は順調に推移し、設定していた数値目標が達成された時点で新たな数値目標を設定する方式を採用し、現在に至っています。

化学物質管理

1997年度以降、ジクロロメタン、1,2-ジクロロエタン、クロロホルムなどの有害大気汚染物質に対して、省資源・廃棄物対策と同様に、数値目標が達成された時点で目標を見直すとともに、対象範囲を拡大する方式を採用して有害大気汚染物質の大気排出量削減に取り組んできました。第3期活動計画の最終年度である2007年度の排出量から、これらの活動は当初の目的を達成したと判断し、新たな数値目標は設定せず、これまでの取り組みを継続しています。

活動計画の進捗状況

環境安全委員会の活動は、地球温暖化対策、省資源・廃棄物対策、有害大気汚染物質の大気排出量削減、労働安全衛生活動の推進など、専門部会が単年度および中期的な活動計画を設定し、取り組んでいます。また、業界上部団体や国あるいは社会との連携強化については、企画会

議が窓口となり、専門部会と連携し、情報提供や意見交換などに努めています。

2010年度の環境安全委員会の取り組みの進捗状況は以下のとおりです。

◆ 地球温暖化対策

2010年度のCO₂排出量は、基準年度に対して1.5% (2.1万t) 上回り、前年度比では0.5% (0.8万t) の削減となりました。昨年度の環境報告書では、2009年度のCO₂排出量が基準年度を下回り、単年度ながら目標を達成したことを報告していましたが、本年度調査では、調査企業範

囲に変更があったことなどにより、2009年度および2010年度共に基準年度を上回る結果となりました。今後も、2008年度～2012年度の第一約束期間5カ年平均での数値目標達成に向けた取り組みを一層推進していきたいと考えています。

◆ 省資源・廃棄物対策

2009年度に引き続き2010年度も、最終処分量、最終処分率、廃棄物発生量のいずれについても、2010年度を最終年度とした行動計画を達成しました。今後も、廃

棄物の削減に向け、取り組みを継続するとともに、新たに2015年度を最終年度とした具体的な行動計画を2010年度に決定し、2011年度からスタートさせています。

◆ 化学物質管理

ジクロロメタン、1,2-ジクロロエタン、クロロホルムの大気排出量削減を目標とした第3期活動計画は2007年度にその数値目標を達成しています。この結果から、有害大気汚染物質に関する自主管理計画は製薬協としての当初の目標は

十分に達成できたと判断しています。今後も、会員企業ごとの自主的な削減の取り組みを働きかけていくとともに、新たな活動に向けた調査・検討を継続していきます。

省資源・廃棄物対策や化学物質管理に関する製薬協の行動計画は順調に推移してきました。一方、地球温暖化対策については、生産量の増加などの要因によりCO₂排出量は数値目標を大幅に上回る状況が続いていましたが、2004年度をピークに減少傾向となり、その後順調にCO₂排出量は減少させてきました。2010年度のCO₂排出量は、2009年度比でほぼ横ばいとなり、目標に対して1.5% (2.1万t) の超過となりました。

製薬協では、今後も日薬連と連携して、会員企業に対してさらに積極的な対策を要請するとともに、省エネルギー技術に関する情報提供や技術研修会などを通じて、会員各社の取り組みを積極的に支援するなど、第一約束期間5年間平均での数値目標達成に向け、努めていきたいと考えています。

今後の課題

◆ 生物多様性保全への取り組み

2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で、2010年以降の国際的な取り組みに関する取り決め(愛知ターゲット)と遺伝資源の活用と利益の配分に関する国際ルール(名古屋議定書)について合意がなされました。

製薬協では、会員各社が自然環境と調和した事業活動に取り組むために、毎年、技術研修会やセミナーを開催しています。2010年度は、生物多様性に関連し「生物多様

性と製薬企業の環境経営」、「医薬品の環境影響とリスク評価」の演題で講演会を開催しました。また、COP10の合意に基づき、生物多様性保全に関する製薬業界の行動指針策定についても検討を開始しています。生物多様性と環境保全活動の関係は広範囲に及ぶことから、環境安全委員会の今後の取り組みの方向性などを考慮しながら、基本的な考えをとりまとめていきたいと考えています。

2010年度活動計画の達成状況概要

項目	2010年度事業計画	2010年度の活動・成果
省エネ・地球温暖化対策	<p>数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2010年度(第一約束期間5年間の平均値)の製薬企業のCO₂排出量を1990年度レベル以下に抑制する。 <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経団連環境自主行動計画フォローアップ ●省エネ・地球温暖化対策技術研修会開催 ●地球温暖化対策に関する調査とフィードバック ●ポスト京都議定書の排出量削減計画の検討 ●効率的なMR営業車の使用推進 ●会員各社の経営層にCO₂排出量目標達成要請 	<p>数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●CO₂排出量は1990年度比で+1.5% <p>活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日薬連と共同でフォローアップ調査を実施し、結果を経団連に報告 ●第14回技術研修会を開催 ●地球温暖化対策に関する情報収集、情報交換、見学会を実施 ●日薬連と共同でポスト京都議定書の排出量削減計画を策定
省資源・廃棄物対策	<p>数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最終処分量を2010年度までに20%まで削減する(1990年度基準)。 ●最終処分率を2010年度において5%以下にする。 ●廃棄物発生量を2010年度において1990年度比10%削減する。 <p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経団連環境自主行動計画フォローアップ ●2011年度以降の廃棄物削減計画の検討 ●3Rの推進のための技術研修会開催 ●医療系一般廃棄物に関する調査とフィードバック ●会員企業の医薬品容器包装改善のための支援 	<p>数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●最終処分量:1990年度比4.4%まで削減 ●最終処分率:1.9% ●発生量:1990年度比40.3%削減 <p>活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日薬連と共同でフォローアップ調査を実施 ●日薬連と共同で廃棄物削減に関する次期中期目標策定 ●日薬連と共同で医療系一般廃棄物に関する情報収集を実施
化学物質管理	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PRTR,VOCに関する調査とフィードバック ●化学物質の大気排出削減技術の調査とフィードバック ●医薬品の環境リスク評価に関する情報調査と検討 ●化学プロセスの安全性評価研究の推進 	<p>活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ●PRTR,VOCに関する調査とフィードバックの実施 ●2010年度のPRTR物質の環境への排出量は2002年度に比べて74%削減であった。 ●2010年度VOCの大気排出量は、2,553トンであった。 ●医薬品の環境影響とリスク管理に関する情報収集と技術研修会の開催 ●化学プロセスの危険性評価に関する研究、講演、見学会を実施
労働安全衛生	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ●労働安全衛生活動に関する各種調査とフィードバック ●従業員の健康維持・増進対策の調査とフィードバック ●安全衛生に関する技術研修会開催 ●営業車両の事故防止研究と対策調査・フィードバック 	<p>活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ●労働安全衛生マネジメントシステムの導入状況および労働災害発生度数率の調査とフィードバックの実施 ●安全衛生に関する技術研修会を実施 ●営業車の事故対策状況、車両事故に関する研究・調査を実施 ●労働安全衛生関連法規集を作成、会員各社に配布
その他の課題	<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境・安全衛生に関するタイムリーで適切な情報発信(環境報告書、かんきょうニュース等) ●業界内外との協働・双方向コミュニケーション推進 ●生物多様性に関する調査とフィードバック ●環境安全講演会、環境安全セミナー等の開催 	<p>活動実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境報告書2010発行 ●かんきょうニュースを4回発行 ●製薬協環境安全委員会2010年度成果報告集を会員各社に配布 ●他の委員会との情報交換、日薬連環境委員会に参画 ●生物多様性に関する講演会を実施 ●生物多様性に関わる行動指針(仮称)作成を検討 ●環境安全講演会、環境安全セミナーを開催

環境安全委員会担当役員として

日本製薬工業協会とは研究開発を志向する製薬企業69社で組織されている団体で、2011年度からは塩野義製薬の手代木社長を会長にお迎えして、より良い医薬品をより早く患者さんにお届けすることを目指して活動しています。具体的には、研究開発委員会、医薬品評価委員会、知的財産委員会など10を超える委員会と医薬産業政策研究所などにおいて、会員企業からの委員の方々が様々な提言の取りまとめ、研究活動を展開してくれています。それら委員会の一つに環境安全委員会があります。

担当役員として環境安全委員会にかかわらせて頂くようになって3年が経ちました。最初は、地球環境問題と労働安全衛生に深く関わっている委員会ということも知らず、委員会の皆さんが議論されていることが、日本語をしゃべっているということしかわからない状態でした。

最初の仕事は、東京都が低炭素社会推進のための実証実験として取り組んだ営業車両からの排出ガス削減に向けた様々な取り組みへの協力事業でした。常任理事会社の営業現場の皆様が大変なご面倒をお掛けしましたが、素晴らしい結果を得ることができ、都に対しても大きな顔ができました。参画企業の皆さんのご尽力に大変感謝したことが昨日のように思い出されます。

担当して3年が経過し、ヒートポンプ、PRTR、VOCなどの言葉もすんなり耳に入ってくるようにはなりましたが、まだまだ知らないことだらけで、参画させて頂く会合では何時も新鮮な感動を覚えながら勉強させて頂いております。この間の委員の皆様のご指導、ご支援に心より御礼申し上げます。

環境安全委員会がどのような活動を展開しているかにつきましては、本冊子で詳細に報告しております

のでそちらをお読み頂きたいと思いますが、他の委員会と違う本委員会の特徴と言える点に触れます。

多くの委員会が医薬品企業としての事業の円滑化・効率化に向けた提言活動にかなりの時間と労力を割いているのに対し、世界標準に合わせる、日本標準に合わせる、あるいは日本でのトップランナーとして牽引役を担うといったスタンスで、会員企業に地球環境問題とか労働安全衛生問題に率先して取り組むことを求めているのが環境安全委員会なのです。そして、幸いなことに、会員企業はその要請にきっちりご対応いただけているという手ごたえを感じながら、委員会活動を推進できているという点があると思っています。CSRが声高に述べられている昨今、少し特殊ですが、他の委員会と同様に極めて重要な役割を担ってくれている委員会なのです。

最後に、環境安全委員会の委員の皆様には、企業としての社会に対する責任がますます大きくなってきております。また、70億人もの方が生活し事業活動をしている地球が悲鳴をあげています。なかなか大きな声にはなりにくい環境・安全に関する取り組みですが、将来の我々の子孫のために、そして企業の健全な事業活動の継続のために、皆さんお一人おひとりが、知恵を出し、声を出し、汗を流して、社会を、そして会社を、導いて下さい。とって大きなテーマに取り組んで下さっている皆さんに感謝しながら、今後の益々のご活躍を祈念しております。



日本製薬工業協会 専務理事
仲谷 博明 氏